

『本に親しむ』

当町の図書館は、水曜日と金曜日は、午後7時まで開館しています。これにより、仕事が終わってからでも、図書館を利用することができます。とても良いことだなと思っています。

私、今年の8月より、このサービスを利用するようになりました。

きっかけは、かねてから読みたいと思っていたある心理学関係の本がありまして、「ありますか？」と問い合わせをしたところ、「あります」との返答でしたので、早速借りに行った次第です。

これを機に、私の図書館利用は続いています。つまり、ほぼ2週間に1冊のペースで本を読んでいます。それも自分としてはかなり分厚い本に挑戦しています。この状況は、未だかつてなかったことです。

読書は、私の趣味の一つではありますが、ここ数年は、文庫本や新書本を年に3冊程度読むくらいでした。現職の時は、本を読む時間が、なかなか確保できませんでした。仕事を終え住宅に戻ると、すぐにテレビをつけ、情報番組やニュース、他の番組等々、就寝までだらだらと見てしまいます。そこに食事や入浴が入りますので、なかなか読書はできません。せいぜい床に就いてから眠気を誘うために、少し難しめの内容の本を読むくらいです(面白くて次が読みたくなるような内容ですと、気持ちが高ぶり寝つきが悪くなります)。先だって、“本を読まない大学生”の記事を目にしましたが、彼らのことをどうのこうのと言えないなと自戒していました。

ですから、今の状況は、驚異的と言っても過言ではありません。「へえ、そうなんだ」と“知らなかったことを知る”。登場人物の気持ちや考えに共感したり、生き方に感動したりする。今、私は、読書の楽しさを存分に味わっています。

時間が遡りますが、私は、子どもの頃、読書の習慣はありませんでした。兄達が買ってきた漫画雑誌(「少年〇〇」等)は、夢中になって読んだものです。小学校低学年の頃、私が希望したわけではないのですが、親が世界名作集なるものを(3巻:1巻に3作品)を買ってくれました。せっかく買ってくれたのですが、パラパラとめくっただけで、ちゃんと読むことはありませんでした。

本を1冊、まともに読んだのは、小学4年生の頃だったと記憶しています。いつからあったものなのか定かではありませんが、居間の片隅にかなり古びた本がありました。外国

の作家が書いた子供向けの推理小説でした。タイトルの「消えた花嫁」とカバーの絵に少し興味を持ち、「ちょっと読んでみよう」と手にしました。これが、面白かった。次はどうなるのかと、夢中でページをめくりました。一気に読みました。読後の気持ちの高ぶりは、今でも覚えています。「本って、いいもんだな」と生まれて初めて思いました。

小学5年生の時、お蔵入りしていた世界名作集を何となく見ていたら、その中に「十五少年漂流記」という作品がありました。さし絵がとても興味深く、読んでみたところ、これがまた面白かった。二日くらいで読み終わりました。この作品は、何度も読みました。

この後、しばらく本とは遠ざかります。高校生の時は、読書をするのは当たり前のような雰囲気まわりにあり、部活の先輩方も「夏目漱石の『こころ』は、いい！」などと、日常会話の中で、読んだ本が話題になっていました。自分も何か読まないとならないのと、とりあえず夏目漱石の作品はほとんど読みました。しかし、「面白い！」とか「感動した！」ということはありませんでした。義務で読んでいたようなもので、いわば「読書しましたよ」という実績づくりみたいなものでした。

今、読書は、私の生活の一部になっています。時間的な余裕が生まれたことが一番の要因ですが、気軽に無理なく図書館利用ができるようになったことも、前者と同じくらい大きな要因です。返却後、「今度は何を読もうか」と、図書館の中をぶらぶらと歩く時間は、私にとって至福の時間です。

俳優の児玉 清さんが、無類の読書家だったことを知ったのは、児玉さんが亡くなった際の報道からでした。その後、ある文庫本を読み終えて、その「解説」を読もうとしましたら、何と児玉さんが書いたものでした。とても興味深く読みましたし、児玉さんの読書に対する造詣の深さに感心しました。「何でも、読んでみよう！『面白い』」と思えばいい！」が、児玉さんのモットーだったように記憶しています。

大衆小説を手にする事が多く、現在、二人の作家の作品を中心に読んでいますが、おいおいその範囲を広げていきたいと思います。

新聞による“本の広告”や“書評”は、本を選ぶ際の判断に大きく影響しています。また、書店の方が工夫されている“ポップ”も参考にしています。手にしてみても、単行本なら“横帯の宣伝文”、文庫本なら“カバー裏に記載されているあらすじと端的な書評”を読んで判断します。「傑作」とか「金字塔」とか「作者渾身の」などの言葉が出てくると、ついつい選んでしまう傾向があります。

数年前から、集中力は低下傾向。目もすぐに疲れます。いくら面白くても、読書するには、気力と体力が、今の私には求められます。貸出期間の2週間は、時には、「つらい。あと1週間あれば」と思うこともあります。まだ残っている知的好奇心を大事にしながら、無理せず本と付き合っていくつもりです。